

(109) 栃木県塩谷郡の晃北鉦山一追記

参考文献(1)に晃北鉦山の鉦山図が掲載されていた。それには3カ所に坑口が記載されていた。前回は1つの坑口跡しか確認できていなかった。残りの坑口跡の確認と、現地へのGPSのガーミンによる経路ログを得るために、10年ぶりに現地を再訪した。

結果。残りの坑口跡は見つけれなかった。また、現地への林道は、図1のD点より先では10年前とは様変わりしており、所々で崩壊や倒木があり、修復は全くされていなかった。が、徒歩での通行は問題は無い。

2020年3月

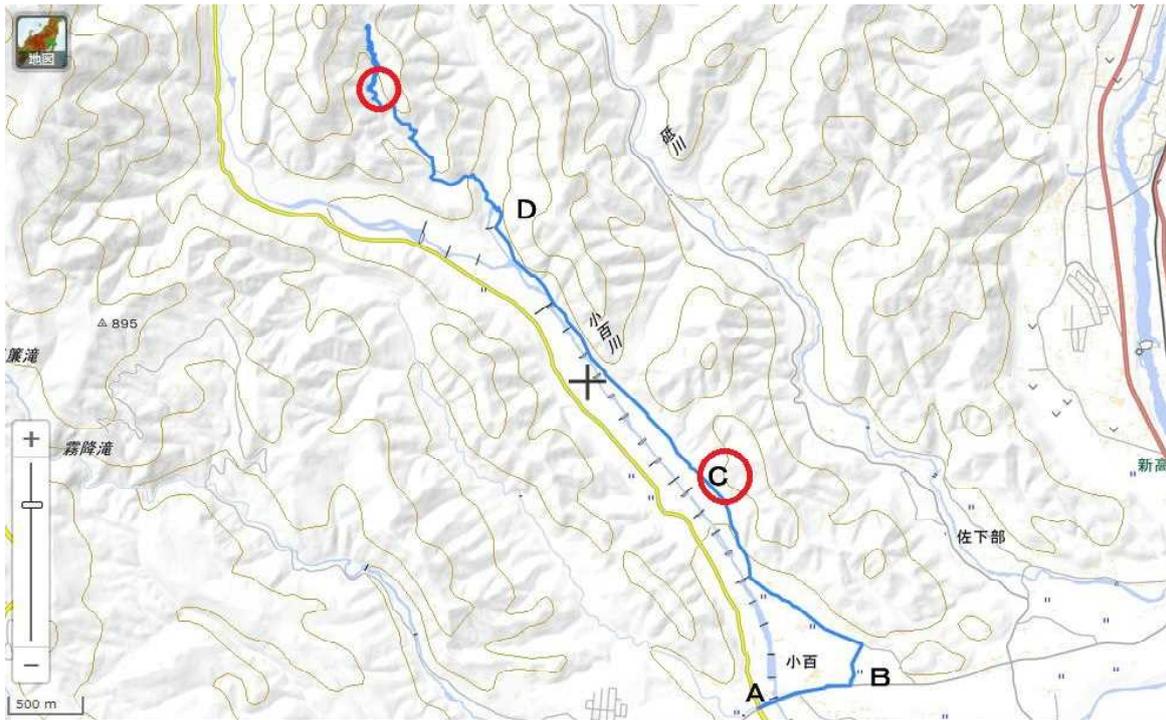


図1 現地までの広域図。水色曲線が今回得たGPSのガーミンによる経路ログ。上の赤丸が現地。下部のA点は小百の交差点。A点からD点までが車、それ以降は徒歩である。245号を北上してきたら、A点で右折し、その先500mから600m当たりのB点で左折し、村道に入り北上して行く。経路途中のC点付近には「小百鉦山跡」がある。下の赤丸付近であり、本探査記で紹介済みである。この付近で進行してきた林道の右側に坑口跡、左側に浄化施設跡を見ることが出来る。晃北鉦山を訪問する際には、この小百鉦山も訪問する日程とするのが宜しいであろう。

この付近一帯には他に沢山の鉦山があった。その多くを本鉦山探査記で紹介しているので、興味があればご参照の程を。

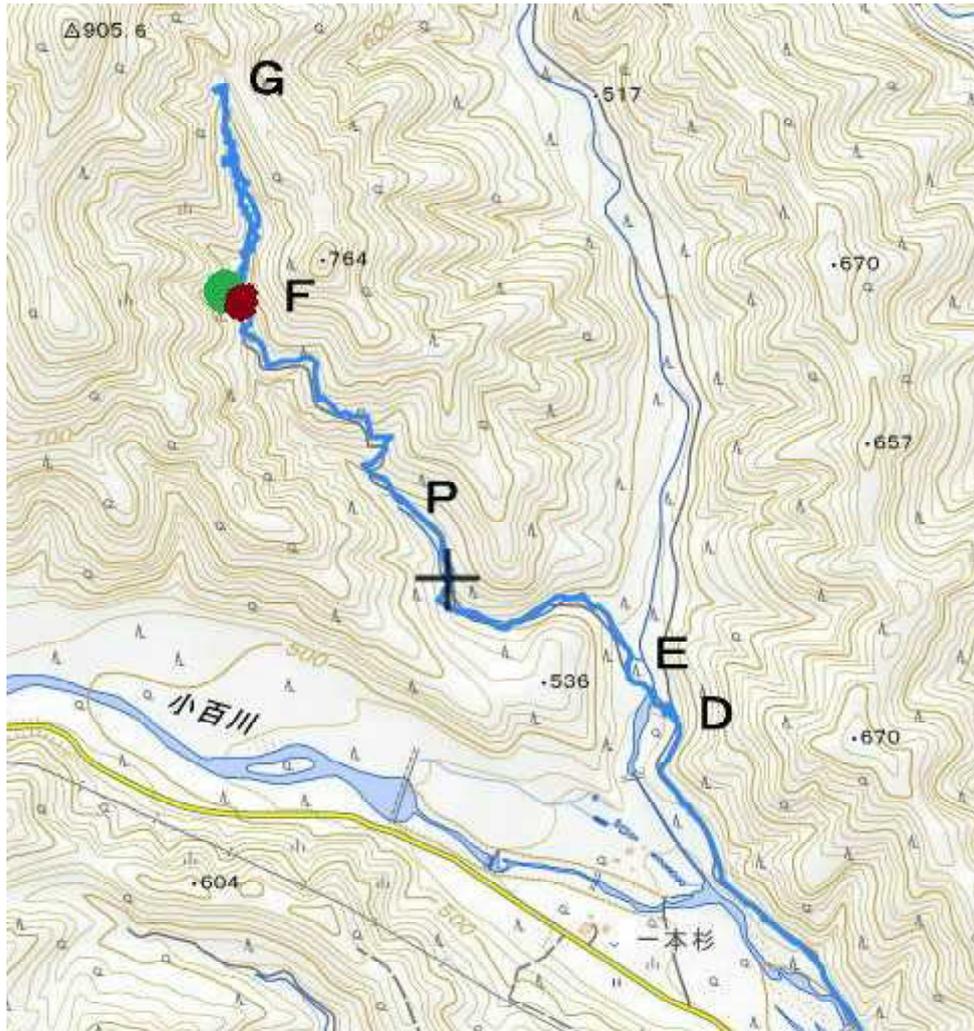


図2 図1の部分拡大図。D点付近に駐車した。前回は、川を車で渡渉し、P点付近まで、林道を車で登り上がったが、D点の直ぐ先で林道は崩壊しており、河原へも進めなくなっていた。D点から歩いた、E点からF点までは林道は所々で崩壊したり、倒木があったりだが歩くのには問題は無い。また、F点手前あたりまで林道は結構広くなだらかである。今回の課題とした残り2つの坑口跡の探査もありG点まで登り上がった。F点での黄緑丸は既報の綺麗な坑口跡、同じく茶色ベタは結構大きなズリ跡。これらは9年前と姿を変えることなく残っていた。

栃木県梶北鉦山附近地質鉦床図

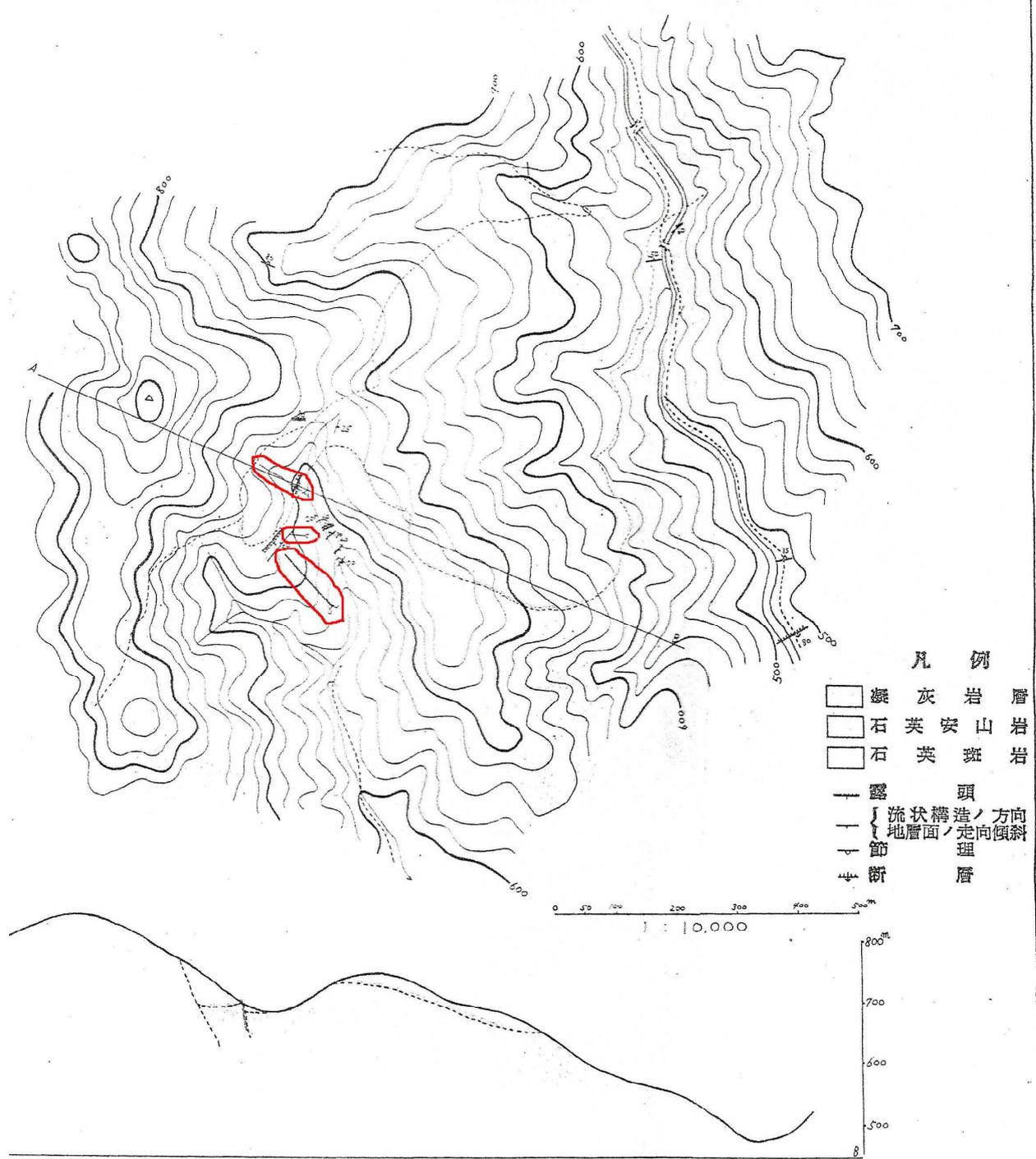


図3 参考文献(1)より複写掲載。図中に赤色ループで3カ所にある坑口と坑道の位置と方向・長さを明示している。下の坑口と坑道は前回及び今回紹介している坑道跡と判断している。それより上流約100mと約200mの右岸に坑口と坑道が記されている。これら2つの場所の確認のため、G点付近まで登り上がったが、それらしい箇所を確認できなかった。
ところで、古い鉦山図の等高線と、現在の地形図の等高線が「細部で」余り一致していない場合がある。細部の等高線分布は現在の地形図の方に信をおけよう。

鉾山跡写真



写真1 図2のD点である。左側に支林道があり、そこに車が止まっている。ここから徒歩となる。車を駐車したところの先から支林道は崩壊していた。9年前には生きており、河原にも出られたのであるが。なを、写真の前方に直進している主林道は直ぐ先で通行不能となっているそうである。当日出会ったオフロードバイカーからの話です。



写真2 図2のE点。広い河原を横断する。写真の左前方に支林道が存在している。写真3を参照。この河原は良いキャンプ地になりそう。



写真3 河原を徒歩で横断し、林道に入ってきた。ここから、この林道を登り上がっていく。崩壊箇所、倒木箇所が何カ所があるが、徒歩では問題は無い。林道は現地付近まで広くてなだらかで歩きやすい。



写真4 図2のF点付近。沢の右岸にあった大きなズリ山。既報の写真3のズリ跡を下流側から見上げている。このズリの上部に立派な坑口がある。

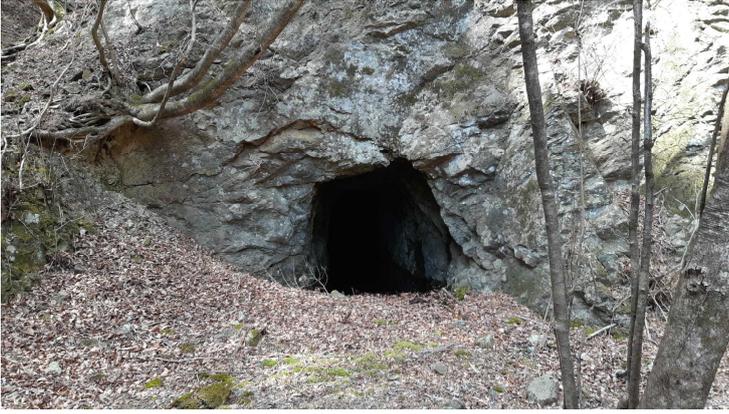


写真5 坑口跡。既報の写真2と対照できよう。10年経過した様子である。



写真6 坑口付近より内部を覗く。10年前と何ら変わっていない。

参考文献

(1)「地下資源調査報告書 第1号」、栃木県、1956年。

付記

(1) 10年前には車を図2中のP点付近に駐車させた。今回はD点に駐車した。林道の崩壊のためである。近年、林道の補修が行われていないようである。林道の利用者、現地の林業従事者がいなくなってしまったからなのであろう。今後、林道を経て鉱山跡を訪問する場合には、この鉱山に限らず、林道が駄目になり、車での通行が不可となっている場合のことも考慮に入れておいた方がよい。例えば、今回はD点まで車では行けたが、その手前の林道に倒木があれば、と言うかあり得るので。心構えしておいたことに越したことはない。

(2) D点まで車で林道を進めない場合の他の対応方法がある。小百交差点のA点で右折しないで、245号を北上し、図2中の下部の「一本杉」付近から、川を徒渉しD点かE点に行き着ける。増水期でなければ、渡渉は容易なようである。

(3) 本稿に晃北鉱山の鉱床図を掲載している。これを手引きとして、著者が未だ未確認の2カ所の坑口跡を探查するのも面白いであろう。

(109) 栃木県塩谷郡の晃北鉾山

参考文献(1)に、銅・亜鉛鉾山として、晃北鉾山が紹介されていた。地域の地質図中に、鉾山位置と思われる箇所に鉾山名が記されていた。地質図中には、既に探査をした、小百鉾山、木戸ヶ沢鉾山、南沢鉾山、大井(沢)鉾山名も記されていた。名前の記されている当たりだろうと見当を付けて探査に出かけたが、空振りであった。何度か探査を繰り返した結果、綺麗な坑口跡を見つけた。やはり、マーキングの位置がずれていたと思う。坑口前には大きなズリがあったが、殆ど凝灰岩の破片ばかりであり、めぼしい鉾石は採集できなかった。

この鉾山跡への経路は次の通りである。既に紹介している「小百鉾山跡」への経路を、車で辿る。林道を、小百鉾山を通り抜けて先へ進んでいく。図1に示している一本杉当たりで、左手にある川の先に簡易橋が見える。それから林道を先へ進むと、林道は左右に分岐している。左側の林道へ進む。広い川原の先に林道が続いている。オフロード車ならば、林道を更に先へ進んで行けよう。図2のP点当たりで駐車した。林道は結構荒れているので、林道を車で先へ進むならば、道の程度を確認しながら進む必要があるだろう。駐車地点から、林道を徒歩で登っていった。林道は沢で途切れていた。が、その沢の先、左側(右岸)に、坑口跡があった。

探査日 2011年12月、2012年1月

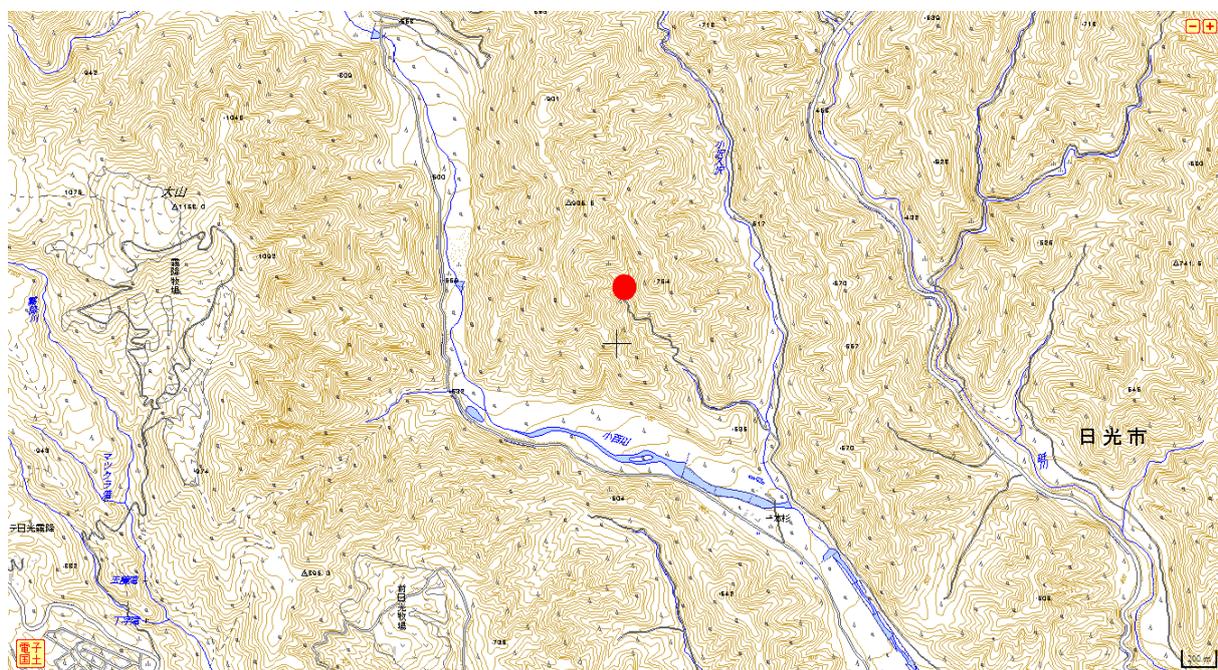


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。赤丸当たりに坑口跡があった。

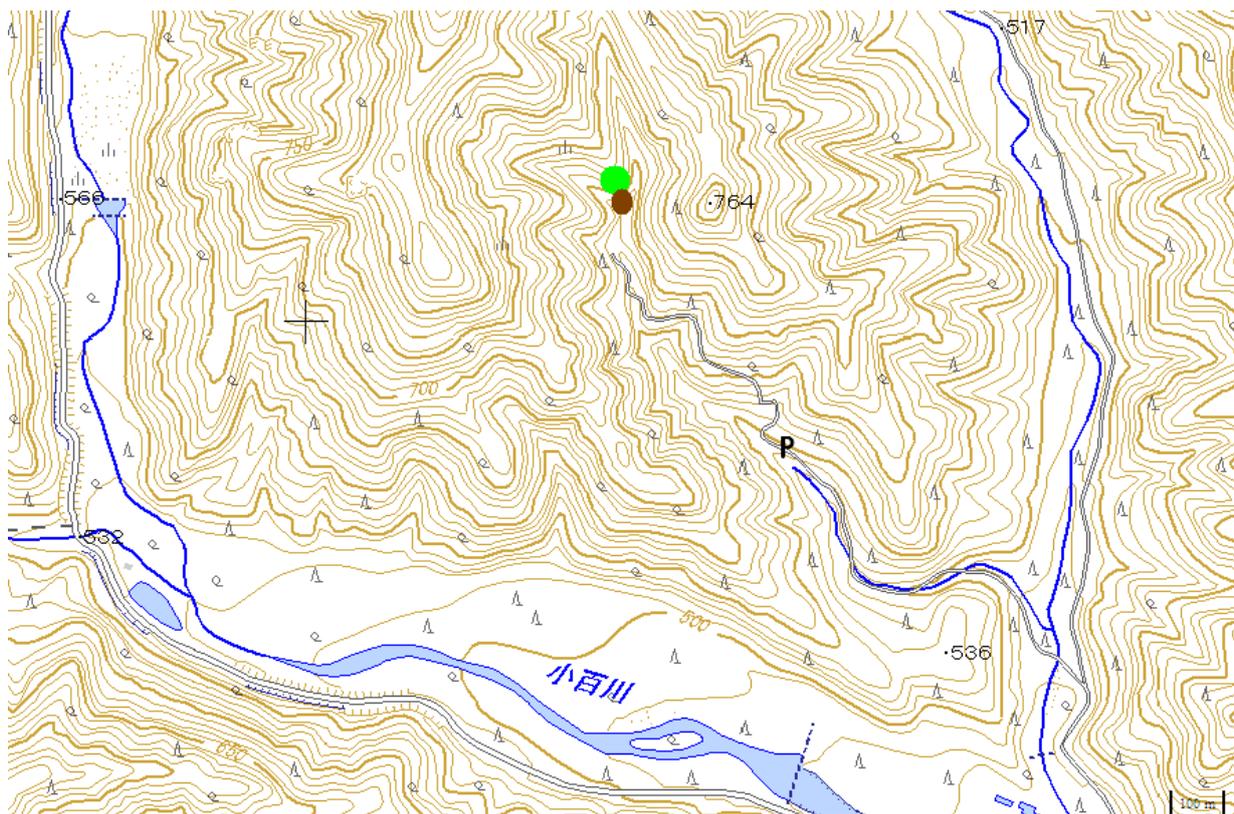


図2 図1の部分拡大図。黄緑丸の所に、立派な坑口跡があった。坑口の前は広いプラトーになっており、ズリらしい。図からもわかるように林道は途中で切れている。が、沢は広く緩いので、簡単に登り切れる。

鉱山跡写真



写真1 ここで幅のある林道は終了している。沢の先に、沢に沿って、小道らしいものはある。坑口跡は沢の上流にある。



写真2 見事な坑口跡である。手前は平らな部分である。



写真3 別の角度から見たの坑口跡。坑口跡前は、凝灰岩のズリで一杯であった。



写真4 坑内の様子。

採集鉍物写真

沢で転石として、黄鉄鉍の微晶が含有されている鉍石を採集。それ程の物ではないので、未掲載。

参考文献

(1)「栃木県塩谷郡内金銀銅鉍床調査報告」、高島、大津、地質調査所、昭和28年(1953年)。
鉍物資源資料No. 2200。